

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成24年10月16日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0172000887-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0172000887-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様個々の力を把握しながら、その方の持っている力を最大限発揮できるよう支援しています。また、要望等に応じながら、外出や食事ツアーなどの行事にも力を入れています。個々の生活様式が守られるよう、一人一人に合わせたケアを行なっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ふきのとう東館」は、法人が経営する他事業所などの建物がある、公園に面した高台の一角に位置する2ユニットのグループホームである。地域密着型サービスとして8年目を迎え、グループホーム主催の夏祭りを通して近隣住民とのつながりを築いている。小学校の学習発表会や中学校の文化祭の招待を受けたり、高校の職場体験学習を受け入れている。また、隣接する事業所の「活き活きホール」で琴の演奏やひよっこ踊り保存会などのボランティアが月に2回ほど訪問し、楽しみのある日常生活を支援している。取締役所長は、火元責任者会議や権利擁護委員会、各々のユニット会議に参加し、職員の見解を把握し、運営に積極的に関わりながら職員の育成に努めている。介護支援専門員は、今年の6月に就任しており、研修を受講しながらグループホームの介護計画作成とモニタリングの在り方について介護職員と共に真摯な姿勢で理念を実現すべく業務を行っている。また、身体拘束をしないケアを実践するために、各ユニットから1名の職員が参加する「権利擁護委員会」を設置し、北海道主催の高齢者虐待防止推進研修会の報告会などを行っている。利用者の楽しみの一つである食事についても、生寿司や近隣の観光名所に花見に出かけてレストランなどの外食の機会を多く取り入れている。かかりつけ医の受診は、グループホームの職員が対応し、随時家族と連携を図りながら安心した生活ができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(第1ユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、入社時に伝え意義を理解してもらっている。また、ミーティング時に再確認したりして、意識して実践につなげられるよう説明している。	「個人の尊厳、慣れ親しんだ生活様式が守られること・一市民として生活できること」を理念に掲げている。月1回の会議で、その理念を話し合い理念にのっとり介護サービスを提供している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣中学校の学校祭への参加や、近所に住む子供が気軽に遊びに来るなど、地域とのつながりは徐々に深まっている。散歩をして花を頂くこともあった。	小学校の発表会や中学校の文化祭では、子供たちが招待状を持ってきてくれる関係が築かれている。障がい者施設主催のお祭りに参加し、手品を見たり歌を聞いたりするなど一市民としての生活をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において、認知症の方の行動などを説明し、理解を深めていただいている。また、近隣中学校の方が雪像作りに来てくれた際、入居者さん達と実際に触れ合うことで、より認知症の方について理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、行事の報告や事故・ヒヤリハットの報告などを行い、事業所の取り組みについて意見を頂いている。	毎月、郵送している広報誌には、会議の案内文を掲載しているが家族の参加が少ない状況である。地域包括支援センターの職員、町内会の役員と所長が中心となり、行事や事故報告などのテーマで話し合いを行っている。	議事録を簡略化するなどの方法により、全家族に議事録を送付したり、年間のテーマを設定して事前に案内するなどの工夫により、家族の参加につながるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が市役所に出向いたり、電話にて指示を頂いたり、運営推進委員会では、地域包括支援センターの方に協力いただいている。毎月、空き室案内などの情報提供もしている。	小樽市には、毎月空き室状況や待機者の人数などを報告し、集団指導に参加し情報を収集している。今年度の法改正については、家族に説明ができるよう事前に介護報酬について確認に出かけている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で「権利擁護委員会」を設立し、身体拘束防止について話し合ったり、ユニットミーティングで身体拘束に該当していないかなどの勉強会を開いている。	虐待防止についてのマニュアルを作成し、身体拘束禁止の対象となる11項目を理解している。ユニットでも高齢者虐待防止について勉強会を開催し、転倒の危険性が高い利用者には、マットを敷くなどの方法で身体拘束を行わないケアを実現している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護委員会で、虐待防止について話し合い、ユニットミーティングで言葉かけなどに注意していくことを話し合っている。虐待防止についての研修会にも参加している。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者があるが、成年後見制度を理解するまでに至っていないため、今後勉強会で取り上げる予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度の改正でも、重要事項の改正点について説明し同意を頂いている。疑問点等があれば、都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様来訪時に意見や要望などを聞きながら、支援経過に記録し、その情報を職員全員が把握できるようにしている。毎朝の申し送り時に、職員間で情報を共有している。	従来は、介護支援専門員が記録していた支援経過をユニットの職員が記入することで家族等の意見を共有している。来訪や電話での内容は、全て担当した職員が記入し、意見や要望を会議で検討することもある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がミーティングに出席し、職員から意見や提案を聞き、業務改善等に役立っている。食事メニューなどの意見を取り入れ、献立作りの参考にしている。	利用者に最も近い位置にいる介護職員から、利用者の嗜好や献立の希望を聞き、運営に反映している。また、洗濯物の乾燥機やモップなどの雑巾を増やしてほしいことなど、積極的に意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による手当及び役職手当等の昇給も含め、職員のモチベーションの向上に努めている。今年度より、権利擁護委員も任命している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を出し、様々な研修に参加できるよう対応している。受講した研修については、ミーティング時に報告し、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主宰の相互訪問研修に参加し、他の施設を知る機会を設けている。相互に他施設を知る機会ができ、とても勉強になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の時点で、ご本人が来られた際に、不安や困っていることを聞きながら、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点で、御家族の気持ちを受け入れながら、要望を聞き対応し、サービス利用開始時には信頼関係が作られるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に困っている状況を改善できるよう、ご本人・ご家族に聞きながら介護計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にお手伝い等をお願いし、感謝を伝え、役割を持って活き活きと暮らしていけるよう、支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と御家族との絆やつながりが途切れないよう、面会や外出等の協力を得ながら御家族と共に支えられる関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた地域の方との交流が途切れないよう、来訪していただけるよう支援している。	利用者にとっての馴染みの人や場所は、自宅であったり、その周辺や従兄弟や家族、友人であり、介護計画にその関係継続の支援を位置づけている。月に一度、馴染みの商店に買い物に出かけたり兄弟に会いに出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い関係が保たれるよう、利用者の思いや顔色などを伺いながら、職員が配慮しながら良い関係を築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、御家族が気軽に連絡をしていただけるような支援をしている。入院による退居等の場合、話を聞き、必要に応じて助言するなどの対応をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の外出要望や買い物・晩酌の要望などがあり、意向を聞きながら、できる限り要望に応じている。	日常生活の様子を観ることで「～だろうか?」「このように思っているのではないかと、本人の立場に立って考え、その思いや意向を「グループホーム支援経過」に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を大切にしながら、入居しても生活スタイルが元の生活と近づけるよう、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントをしながら月1回のカンファレンスの実施や、毎朝の申し送り時に身体面・精神面の変化等について話し合い、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に、ご本人の現状を話し合い、より良いケアができないか検討し、介護計画を立てている。その方にとって今何が必要か、満足していただけるケアを念頭に入れながらモニタリングしている。	介護計画は、入居日と作成日が同日であり、新規の入居者は1か月後に見直しをしている。本人や家族の意向を把握し、かかりつけ医や看護師、訪問マッサージ師の意見を参考にしながら、毎月モニタリングをしている。本人には、分かり易い言葉で説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記録し、特変などがあれば支援経過・申し送りノートに記載し、情報を共有している。計画書に添ったケアはマーカーをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出要望などが頻回にある方にも、一緒に外出しながら対応している。晩酌希望の方にもおつまみなどを用意し、ビールを嗜んでもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや避難訓練には町内会の方や近所の方々に協力を頂いている。地域とのつながりは年々深まっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医がいた場合は、主治医に継続して診ていただけるよう通院介助等を行なっている。また、往診希望などがあれば、事業所から紹介し希望する医療機関に受けられるよう支援している。	2ユニットで5～6名ほど利用者が脳外科や精神科などのかかりつけ医を受診している。通院介助は職員が対応し、大きな変化がある時には、その都度家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はないが、訪問診療の医師や看護師と連携を図り相談することで安心した健康状態で過ごせるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、施設での生活状況を伝え、入院生活に支障が生じないよう対応している。入院後は面会での看護師屋や御家族からの情報をいただきながら、退院に向けての準備を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、重度化した時の意向について伺い、その状況になりそうな時に、利用者本人や無理であれば、御家族の意思を聞きながら主治医と相談し、事業所に対応できることを説明しながら、終末期に向けての体制を整えている。	入居時に「看取りに関する指針」の文書にて説明をしており、過去には、医療行為を必要としない看取りを行った実績がある。今後は、医療連携体制を整えることを前提に、家族の希望があれば看取りを行う考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の避難訓練の際、救命救急対応についてやAEDの使用方法について訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度、火元責任者会議を開催し、防災について考える機会を設けている。年に2回、消防署の協力を頂きながら避難訓練を実施。災害時に飲料水等の備蓄の用意もできている。	年2回、夜間と日中を想定した火災の避難訓練を実施している。地域住民が十数名参加し、屋外に避難した利用者の見守りを依頼している。訓練実施後は、職員と地域住民にアンケートを書いてもらい、災害対策に活かしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳を守られる支援を心がけ、言葉かけ等には都度注意し合っている。	権利擁護委員会を設置、言葉かけについて確認している。馴れ合いにならないよう配慮し、不適切な言葉は職員(リビングパートナー)で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を聞きながら、個々のペースに合わせたケアを行なっている。リビングで過ごしたり自室で休むなど、希望に添って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の生活リズムはあるが、自室で本を読んだり、散歩に出かけたりと、希望に添える様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットや美容室外出で、身だしなみを整えられるようにしている。外出の際はいつもよりおしゃれができるよう、化粧の支援などを行っている。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品の要望には、買い物代行している。食事の準備の際、盛り付けの手伝いや、食器拭きの手伝いは当番を決めて行なってもらっている。	利用者や職員の意見を反映させながら、季節の食材を活かして厨房で献立を作成している。回転寿司やレストランでの外食、年間の行事食を楽しんでいる。職員も会話をしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については、記録に残し、栄養状態の把握に努めている。特に栄養状態が低下している方については、医師から栄養補助剤が処方され栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアをその方に合わせて行なっている。うがいが難しい方にはガーゼ洗浄をしたり、毎月、歯科訪問診療による口腔ケアを受けている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁回数が少なくなった方に紙パンツから布パンツへ変更したり、時間を見ながらトイレの声かけや同行を行い、トイレでの排泄を継続できている方もいる。	排泄パターンを把握して声かけする事で、失禁が少なくなった利用者もいる。座位保持が難しい場合以外は、日中は可能な限りトイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツやパッドなどで過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況について記録し、便秘を予防している。毎日ヨーグルトを提供したり、体操をしながら、便秘を予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望どおりに入浴時間を設けることはできていないが、入浴予定日以外に入浴を要望された方がいる時は、シャワー浴対応などを行っている。	毎日、午後の時間帯で各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。入浴順や入浴回数、同性介助など、可能な限り希望に添えるように配慮している。詩吟や1対1で会話をしながら、ゆっくり入浴を楽しんでいる。体調に応じて清拭を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで生活されている。日中も昼寝をされたり、夜間眠れない方にはお話をしながら安心して入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードにて確認できるようにしている。薬変更などの際は、申し送り等で共有し副作用を把握、その後の体調変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な縫い物や好きなカラオケなど、一人一人のできることを提供している。本が好きな方は読書を毎日楽しまれている。晩酌もされている。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の頻度は高くはないが、定期的に希望される食事ツアーに出かけたり、御家族の協力のもと、外出されたりしている。水族館や博物館を楽しめることもあった。	目の前の公園への散歩や、花壇見学、事業所前のベンチでの日光浴など、各利用者に応じて戸外に出かけている。希望に応じて、個別の買い物などにも出かけている。冬季は、生き生きホールでの催し物に参加するため、外気に触れる機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度をご自分で管理されている方もおり、外出先でお菓子などを選び買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や友人と電話でお話されたり、手紙が送られてきたりしている。携帯電話を持ち、遣われている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られたスペースではあるが、ソファや食卓椅子を並べ、それぞれ居心地良く過ごせるよう、その時々で工夫している。壁には季節感を感じられるような飾りを貼っている。	居間と食堂が一体化した造りになっているが、窓際の明るい場所にソファを配置して、温かい日差しの中、雄大な景色を楽しみながらゆっくり過ごすことが出来る。廊下や居間の壁には、行事の写真や季節感を感じる事が出来るクリスマスツリーやリースなどが飾られている。温湿度計を設置して、過ごしやすい環境整備を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居時には、今まで使っていた馴染みのものを持ってきて頂くようお願いしている。気の合う仲間同士、ソファに座りお話されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた椅子やタンスなどをお持ちいただいている。写真などを飾ったり、人形を並べたり、危険の無い限り、自由に物を置いていただいている。	各居室には、クローゼットが造りつけられている。家族の写真やパッチワークなどの自分の作品を飾り、その人らしい個性的な居室になっている。使い慣れた机や籐いす、仏壇や書籍なども持ち込み、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のアセスメントをした上で、なるべく自立した生活が送られるよう、配慮している。福祉用具の活用等で、身体機能の維持を図っている方もいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふきのとう東館

作成日：平成 24年 12月 20日

市町村受理日：平成 24年 12月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	議事録を簡略化する方法により、全家族に議事録を送付したり、年間のテーマを設定して事前に案内するなどの工夫により、家族の参加につながるように期待したい。	ご家族・ご利用者が、無理のかからないように意見を述べ参加できる会議を開催する。	今回の外部評価結果をご家族に郵送する際、再度、会議参加へのお願いの手紙を郵送する。また、ご家族来訪時には、運営推進会議の内容をお話しながら、ご家族からの意見を求める。議事録については、取り上げられた意見などをまとめて掲載する。	3ヶ月間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

